



「すべての子どもの学習権を保障する」新津一小に

校長 間嶋 哲

令和5年度が始まりました。昨年度は創立150周年に関わる行事が目白押しでした。あらためて当校の歴史の重みと、保護者や地域の皆さんのありがたさを感じた年でした。私自身は、当校に赴任して3年目となり、さらに良い小学校にしていくために何ができるのかを考え、果敢に挑戦していく所存です。

さて、この4月は新一年生58名を迎え、全校児童が400名ぴったりとなりました。残念ながらインフルエンザに罹患し、入学式に参加できなかった1年生がいたり、複数のクラスで学級閉鎖があったりするなど、インフルエンザが猛威を振るった1か月でした。

ご承知のとおり、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けも、5月8日から「5類」に移行するようです。また、今年度からマスクの着用については、個人（保護者）の判断ということになりました。ただ現実的には、報道されている感染者数も思ったほど減らず、実際マスクを外している子どもや教職員が少ないことも事実です。3年間かけて身に付いた生活習慣は、なかなか簡単には戻ってこないものだと感じています。

ところで私は、今年度の学校経営の中心に、次の二つを据えていこうと考えています。

一つは、日々の授業を通じて、子どもに読解力をしっかりと付けていくこと。もう一つは、不登校（傾向も含む）の児童をゼロに近づけることです。

一つ目の読解力については、昨年度から校内研修で取り組んできました。しかし、まだまだ十分とはいえません。日々の授業の中で、読解力の不足を感じる場面があるからです。先日、6年生が全国学力・学習状況調査に取り組みました。毎年、当校の教職員は、調査後に実際の問題を解き、さらには、子どもの解答の採点をしています。国が求める学力観や、6年生の学力実態を肌で感じるためです。採点する中で、特に記述式問題に対しては、やはり読解力の不足を感じる場面が見られます。書いてある文章や図表を正しく理解できることは、知性の源であり、学力の基盤といってもよい力です。

二つ目については、おそらく他校と比較すれば、不登校の件数自体は少ないと思います。しかし、すべての子どもの学習権を保障することが学校の第一の役割であることを考えると、やはり不登校ゼロを目指したいのです。不登校の問題は、様々な原因が複雑に絡み合っているため、決して特効薬のようなものはありません。ただ現状をよしとせず諦めないことや、保護者に寄り添った対応をして、少しでも改善の兆しがあれば、その子の頑張りを褒めていくことなどを、当校の教職員には常に話しています。すべての子どもが笑顔絶やさず、仲良く学校生活を過ごせるよう、皆様のご協力を宜しくお願いいたします。